

平成27年度病虫害発生予察予報第1号（4月）

平成27年4月3日

高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
抑制・促成キュウリ	べと病 うどんこ病 つる枯病 褐斑病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	平年並 平年並 多 やや少 やや少～少 平年並～ やや多 やや多
促成ナス	灰色かび病 うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ ホコリダニ類	多 やや少 やや多～多 平年並～ やや多 少 平年並 多
促成ピーマン、シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ タバココナジラミ	やや多 多 やや少 やや少 やや少 平年並～ やや多
促成トマト	すすかび病 葉かび病 うどんこ病 タバココナジラミ	平年並～ 多 多 平年並 平年並

I 気象予報（高松地方気象台 4 月 2 日発表）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞ 4 月 4 日から 5 月 3 日

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう 1 ヶ月の平均気温は、平年並または高い確率ともに 40% です。日照時間は、少ない確率 60% です。

週別の気温は、1 週目は平年並の確率 50% です。2 週目は低い確率に 60% です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並		高い (多い)	
1 ヶ月	四国地方	気温	40		30		30	
		降水量	20	40			40	
		日照時間	60			30		10

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い	
1 週目	四国地方	20	50			30
2 週目		60			30	10
3 ～ 4 週目		30	30		40	

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：4 月 4 日（土）～ 5 月 3 日（日）

1 週目：4 月 4 日（土）～ 4 月 10 日（金）

2 週目：4 月 11 日（土）～ 4 月 17 日（金）

3 ～ 4 週目：4 月 18 日（土）～ 5 月 1 日（金）

II 病虫害発生予想

1 抑制、促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。いずれの地域でも発生面積は平年よりやや少なめ～並であったが、県中央部、西部では発病程度の高いほ場も見られた。

(2) 向こう 1 か月の気象予報では降水量が多めと予想されていることから、発生面積が増加すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。いずれの地域でも発生面積は平年並であったが、県中央部では発病程度の高いほ場も見られた。
- (2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、新たな発病は少ないと考えるが、既発ほ場を中心に平年並の発生が続くと考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。ガッテン乳剤、プロパティフロアブルを使用した場合、菌叢の褐変、消失は見られないので防除効果は上位葉への進展など、未発生葉への進展状況で判断する。

3) つる枯病

予 想 発生時期：平年並／発生量：多

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県中央部、中西部で発生面積が多く、県中西部では発病程度の高いほ場も見られた。県西部では少発生であったが、県下全域で増加傾向にある。
- (2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、発生面積が増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

4) 褐斑病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや少

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られたが。いずれの地域も発生面積は多くないが、県中央部、西部とも先月より病勢が進展しており、発病程度の高いほ場も見られた。
- (2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、発生面積が増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

5) 黄化えそ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや少～少

根 抛

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県下全域で少発生であるが、既発ほ場では微増傾向にある。
- (2)今後、気温の上昇にともない、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が盛んになることから、既発ほ場を中心に発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1)ミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、本病の発生株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

6) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並～やや多

根 抛

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。いずれの地域でも先月に比べ発生面積の増加は見られていないが、寄生密度が上昇したほ場も見られた。
- (2)今後、気温の上昇にともない、増殖が盛んになると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

7) タバココナジラミ

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや多

根 抛

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県中央部では発生面積が多かったが、いずれの地域でも低密度の発生であり、すす病の発生は見られなかった。
- (2)気温の上昇にともない増殖が盛んになると考えられるため、既発ほ場では密度が増加すると考えられる。

対 策

- (1)タバココナジラミは上位葉に卵を産みつけるので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心にウララDF、コルト顆粒水和剤などで防除を行う（本県全域に分布していると思われるタバココナジラミバイオタイプQは合成ピレスロイド剤、ネオニコチノイド剤の防除効果が低い）。

2 促成ナスの病害虫

1) 灰色かび病

予 想 発生時期：平年並／発生量：多

根 抛

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県中央部、西部では平年並の発生であったが、県東部では発生面積が多かった。
- (2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、現状のまま推移すると考えられる。

対 策

(1)ハウス内湿度の低下に努めるとともに、罹病果をほ場外に持ち出し処分する。

2) うどんこ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや少

根 拠

(1)巡回調査では県中央部でのみ発生が見られた。発生面積は増加傾向にあるが、発病程度の高いほ場は見られなかった。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黒枯病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや多～多

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県東部では先月に比べ発生面積、発病程度とも減少したが、多発傾向が続いている。県中央部、西部では発生面積が増加した。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、やや多めの発生が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底する。

(2)罹病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) すすかび病

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並～やや多

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。いずれの地域でも発生面積の増加は見られていないが、先月に比べ発病程度が高くなった。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、病勢が進展すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底する。

(2)罹病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期：平年並／発生量：少

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で見られたが、発生量の多いほ場は見られなかった。

(2)ほとんどのほ場でタバコカスミカメが導入されているため、少発生が続くと考え

られる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県中央部では発生面積が多かったが、発生程度が高いほ場は無かった。

(2)ほとんどのほ場でタバコカスミカメが導入されているため、密度の増加はないと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

7) ホコリダニ類

予 想 発生時期：平年並／発生量：多

根 拠

(1)巡回調査では県東部では少発生であったが、県中央部、西部では多発生であった。

(2)天敵、農薬による防除が困難な害虫のため、既発ほ場を中心に多発傾向が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底する。

(2)薬剤防除を行う場合、生長点付近を中心にたっぷりと薬剤散布を行う。また、発生株だけでなく、周辺の株も防除を行う。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや多

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県東部では平年並の発生であったが、県中央部、中西部では平年より多めの発生であり、発病程度の高いほ場も見られた。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、病勢の進展は少ないと考えられるが、やや多めの発生が続くと考えられる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生時期：平年並／発生量：多

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県中西部では発病面積は平年並であったが、先月同様、発病程度が高い傾向が続いている。県東部、中央部では多発生であった。
- (2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、多めの発生が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや少

根 拠

- (1)巡回調査では県中央部のみで発生が見られており、発病程度の高いほ場も見られなかった。
- (2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや少

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で見られた。いずれの地域でも密度の高いほ場は見られなかった。
- (2)気温の上昇にともない増殖が盛んになるため、天敵の数が減少しているほ場では密度が増加する恐れがあるので注意する。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

5) ヒラズハナアザミウマ

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや少

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で見られた。県中央部では発生面積が多く、県東部、中西部では寄生密度が高めであったが、実害は見られていない。
- (2)気温の上昇にともない増殖が盛んになるため、天敵の数が少ないほ場では密度が増加する恐れがあるので注意する。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並～やや多

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で見られた。県東部、中西部では先月に比べ増加傾向であるが、寄生密度の高いほ場は見られなかった。県中央部では一部で寄生密度が高く、すす病の発生が見られたほ場もあった。

(2)気温の上昇にともない増殖が盛んになるため、天敵の数が少ないほ場では密度が増加する恐れがあるので注意する。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

4 促成トマトの病害虫

1) すすかび病

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並～やや多

根 拠

(1)巡回調査では一部のほ場で発生が見られた。下葉中心の発生であり、先月に比べ発生面積、発病程度とも減少傾向した。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。また、本病は葉かび病に酷似するので、防除薬剤の選定に注意する。

2) 葉かび病

予 想 発生時期：平年並／発生量：多

根 拠

(1)巡回調査では一部のほ場で発生が見られた。先月に比べ発生面積が増加したが、下葉中心の発生であった。また、巡回調査において、CF桃太郎ファイトなど、葉かび耐病性品種での発生も確認されている。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、多発傾向が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。また、本病はすすかび病に酷似するので、防除薬剤の選定に注意する。

3) うどんこ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

- (1) 巡回調査では一部のは場で発生が見られた。先月に比べ、発生面積は減少したが、既発は場での病勢が進展した。
- (2) 向こう 1 か月の気象予報では降水量が多めと予想されているため、病勢の進展は少ないと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

- (1) 巡回調査では一部のは場で発生が僅かに見られ程度であった。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ（こうち農業ネット）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ① 病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ② 病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③ 病虫害発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病虫害 etc.

こうち農業ネットサービス※

- ・ 携帯電話を使った病虫害関連情報（どなたでも利用可能です）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info>（Iモード）

トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報（ezweb）

四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：（ヤフー）

- ① 病虫害発生予察情報（概要）

※ 閲覧は無料ですが通信料は別途必要となります